

ふくいじょうあと 8. 福井城跡

(福井駅周辺土地区画整理事業)

所在地：福井市日之出他

調査原因：福井駅周辺土地区画整理事業

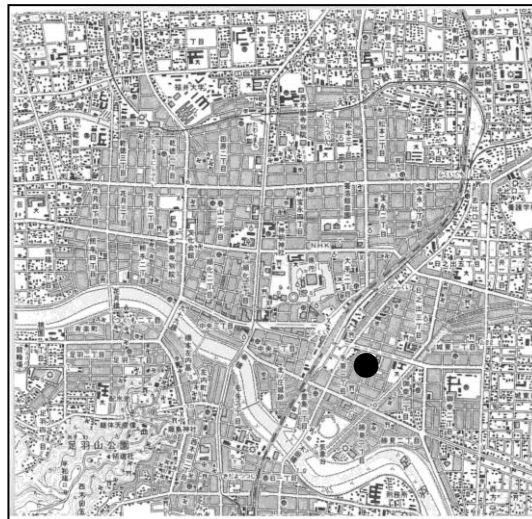
調査期間：平成28年3月1日

～平成28年10月31日

調査主体：福井市教育委員会事務局文化財保護課

調査面積：計2,780 m²

時代：近世



位置図 (S=1/50,000)

東口北線の調査概要 調査地は城下絵図との比較では武家屋敷と道にあたる場所です。調査では柱穴やゴミ穴、砂利敷の道を確認しました。

ゴミ穴は、道から屋敷地内へ2～3mほど入った地点で確認しました。ゴミ穴の中からは、廃棄した生活用具だけではなく、焼土や炭化物も見つかっており、江戸時代の大火との関連がうかがえます。柱穴はゴミ穴と道の間に並んだ状態で検出されました。

東口広場の調査概要 調査地は東口北線と同様に、城下絵図との比較では武家屋敷と道にあたる場所です。

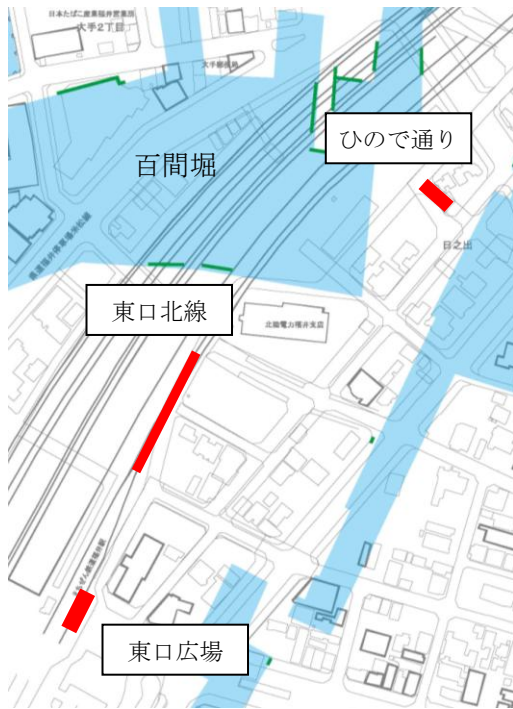
この調査区で特筆すべき遺構は、調査区中央を南北方向に走る大溝です。底に向かって幅が狭くなる形状をしており、幅は約3m、深さは約2mです。この溝を埋め立てた後に江戸時代の屋敷や道が作られていることから、溝はそれより前の時代のものになります。溝の中から遺物がほとんど見つからなかったため、詳しい時期は不明ですが、周辺の事例から北庄城期の可能性があります。他の遺構としては、武家屋敷に伴う柱穴やゴミ穴、そして砂利敷の道が見つかっています。

ひので通りの調査概要 調査地は城下絵図との比較では、東外曲輪と東三の丸を繋ぐ土橋付近の道にあたります。調査区全体で道の舗装に使ったと思われる砂利層を確認しました。

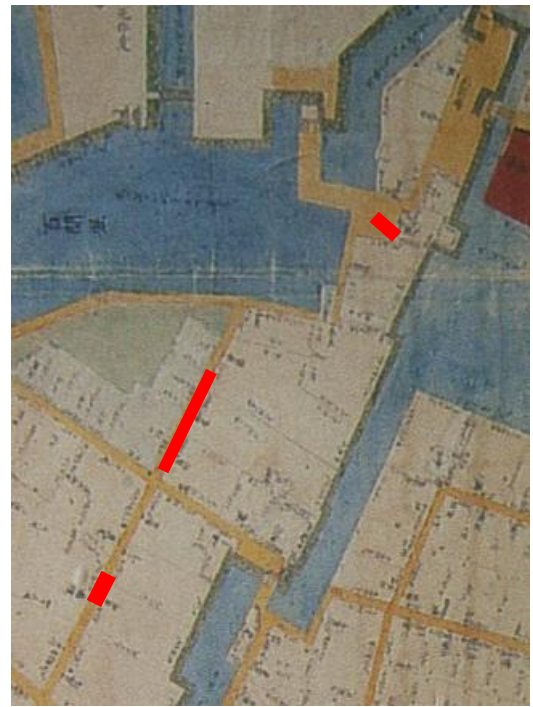
ゴミ穴が調査区西側から、笏谷石製暗渠が調査区東側からそれぞれ見つかっています。ゴミ穴からは多量の笏谷石礫の他、箸や下駄等の木製品が少量ながら出土しました。ゴミ穴は砂利層のすぐ下から見つかったため、築城時の工事に伴うものである可能性が高いです。笏谷石製暗渠は芝原上水を飲料水として利用するための導水施設として用いられたと考えられますが、東外曲輪では初めて確認しました。

まとめ 今回の調査では、江戸時代以前の遺構が見つかったことで、旧吉野川左岸における土地利用を知る手がかりを得ることができました。また、東外曲輪の飲料水は井戸で確保していたとこれまで考えておりましたが、一部は芝原上水が及んでいたことが判明しました。

(山場愛弓)



第1図 調査地位置図



第2図 絵図比定図



写真1 東口北線 砂利敷道 (南から)



写真2 東口広場 大溝 (北から)



写真3 ひので通り ゴミ穴 (北西から)



写真4 ひので通り 石製暗渠(北西から)